

母親

黄思韻

HUANG SIYUN

皆さんはこのような経験があるのでしょうか？君がどのような料理が美味しいと言えさえすれば、お母さんは君がうんざりして文句を言うまで頻繁にその料理を作ってあげるのではないのでしょうか。実は、お母さんは君にこの世に最もいいものをあげたいと思い、君がすべていいことができることを望んでいる。それが母親である。

しかし、ひとり親の私は、日本にくる前に、日本に住んでいる母が作ってくれた料理をあまり食べたことがなかった。ましてやそういった母からの愛情を感じたことも少なかった。子どもの頃、空港へ年に1度ほど帰国する母を迎えに行くたびに、すごく緊張していた。母が日本で身に付けた礼儀は私にすごく威厳があると感じさせた。また、母に会う機会が少ないため、恥ずかしいと感じていた。しかしながら、そのような母を「スーパーマン」だと思っていた。母は一人で日本に行き、自分で日本語を学びながら、仕事をしていることをすごく尊敬している。

日本に来て、すべてが変わった。

私の母が「子ども」と見えてきた。それは自分が成長したのか、母が老けてしまったのかわからないものであった。ただし、これはどちらであれ、何でもできると思っていた母親が弱くなったと感じて、これからは自分が責任を持って母親を守らないといけないと思った。これに気づき、心から悲しいと感じた。

5年前、ようやく日本で働いている母と一緒に生活できるようになった。しかしながら、そのと

き通っていた学校は母が住んでいる場所から遠いため、私は一人暮らし生活が始まった。小学生から寮に住んでいた私は、「一人暮らしは問題ない！」と自信があったが、そのとき、自分で料理を作ることがなかったため、ほぼ毎日コンビニのお弁当を食べていた。それを知った母がまるで「ドラえもん」のように助けてくれた。さまざまな料理を教えてくれて、海外に住んでいても、実家の味が味わえると嬉しかった。少し時間がかかったが、私にも母からの愛情を感じることもできた。もちろん料理だけではなく、他にもたくさんのことを教えてくれた。だからこそ、一人で日本に来た母も同じ経験があったことに気づいた。あの時、母は教えてくれる人がいなかったのに、きっと寂しくて辛かったと知った。

成長とは、君が初めてもらった給料で親にプレゼントを買うのではなく、君が親の脆弱さに気づいて、親が君を頼りにしたいと思えることである。コロナの影響で、世界中が止まっているように見えた。しかしながら、時は止まらない。私は成長しつつ、母も年を取っている。なので、今度は私が母の「ドラえもん」になって、母を守りたい。